

# 米國陸軍の内幕と道路の話（一）

日 野 生

米國陸軍の内幕……これで戦が出来るだらうかと思ふ程頗廢し

切つてある、もとより米國は獨立戦争からこの方志願兵制度を以て兵制の根本と爲してゐるが、その建軍の主義は。

國防は舉國一致を以て行ふべく、米國市民にして苟も體格の適當なる男子は凡て米國兵たるの義務がある、然れども國家の強制を以て軍隊を構成することなく其の建國の精神たる自由平等主義に基いて市民の自覺に俟つて志願兵制度を採用して平時最小限度の精銳部隊を存置するに止めて一度有事の際は所要の大軍を編成する。

といふのであるが、その後に徵兵令を布いてゐる、そうして正規軍護國軍編成豫備軍等に大別されてゐるが、最近米國の新聞雑誌等にも軍隊に關するいろいろのことが記載されてゐる。これ等を見てみると却々面白いことが數々見出されるのである。

全體今度の日本との戦争といふことはどうしたことか……何

故に日本と吾々は戦はねばならないのか。

と異口同音に對日戦争の理由も何もかも判つてゐないどころか多數の兵隊さん達は何にも知らない有様である、勿論米國では戦争するのに何等の理由がないのに無理やりにワシントンの低能な政治家達によつてやらざられるのであるから筋の通つた戦争觀念など彼等米軍兵隊の頭に植付けることは出來ないのも無理はないが、全く戦闘意識などの持合せはないやうである。アメリカの某雑誌によると、昨年の八月兵役年限を十八ヶ月に延長案が成立しこそに、米國の兵隊さんは。

孤立派の連中がいふところによると米國に攻めこむことの出来る國は一國だつてないといふことだが、それなら俺達がこの上に一年半も隊にある必要は全然ないぢやないか。

と彼等は孤立派の主張に大分影響されてゐることは事實だが全くかれら兵隊のいふやうに米國の陸軍がその明確な目標をもつて

ゐないことも確かである。ある雑誌記者が訪れた某師團ではルーズベルト大統領の主張を理解してゐる兵隊は數へる程しかなかつたとのことであるが、一士官はその記者に。

どんな目標でもないよりはましである、もし當局がなんらか明確な進路を明示してくれないならば、軍の士氣は益々悪化して仕舞うだけである。

と語つたそらだが、兵の指揮官に對する不信も軍紀の弛緩に大きな原因となつて居り兵は指揮官に非常な不滿を以てゐる、この場合の指揮官といふのは直接兵隊の訓練にあたつてゐる、尉官級の士官のことである。これ等士官は下士官から教練の問題で常々突つこまれてその度毎に兵の尊敬を失つてゐる實際彼等は指揮官としてはなつてゐないのである。

と記者はありのまゝ見たところを書いてゐるが又ヘラルドの三面記事に。

某隊にHと云ふ少佐がある、彼は常に野外演習では、ごた／＼を起す男で評判になつてゐるが、或は大演習で彼は間違つて自分の部隊を敵の陣地の只だ中にれこんでしまつた、審判官は彼の部隊は全滅したと判定したところH少佐は自分の行動を辯解してきかないで司令部の高級將校を呼んで来て判定して貰ふと頑張り通したと云ふ又同じ演習で歩兵の中隊を指揮してゐたB大尉は出發點から僅かに二哩程しか離れてゐない地點を

探すのに十哩もうろつきそのあげくの果ては敵の手中にうまうまと落ちこんでしまつたやうなこともある、又或る部隊では森林の中で道に迷ひ磁石をたよりにしていろいろと苦心したがどうしても判らず、しまひにはこの地方の土地には鐵分が多量に含まれてゐるから磁石がきかなくなつたのだと眞面目にいひ出して士の中の鐵について部下の曹長と大議論をやり出した笑ひごとのやうな一大尉もある、さうかと思ふと演習で危險信號旗の立つてゐる場所に部下を引つぱつて行き、審判官からこの部隊は全滅といふ判定を下されるとこれは味方の砲兵隊の信號ぢやないかと抗辯して審査官から成程さうだ。だが味方の砲彈で全滅だ……とやりこめられた程驚くべき幼稚な中尉も居る、こんな指揮官を上に戴く兵こそ災難である兵が不平を抱ぐるのも無理がない。

とこんな低級の頭脳を持つ指揮官と體式な訓練では米國の國防も何もあつたものではないと皮肉たつぶりで書いてゐるが又雑誌には。

ある隊では朝七時になると毎日兵營から二哩離れた森の中に出来かけて行き體操やら、密集訓練やら簡単な講義などで約二時間を過し最後に一時間演習する、毎日毎日同じことばかりやられてゐると兵は不平を云ふ中隊の指導に當つてゐる若い將校達も全く單調なことだと、これを認めてゐながら他の訓練の仕様

がないのだと云つてゐる。武器彈薬の不足もあきれる程で或る師團の兵の多くはいまだに一發の薦撃臼砲をも擊つたことはなく、スプリングフィールド製の銃で實彈を擊つなどといふことは極めて稀にしかないといふ。これで一體戦争ができるのである。

らうか獨逸の新兵が電撃戰術を習ひ始めてゐた頃には米國の兵隊はまだ適當な武器さへも手に觸れてゐないといふ調子であると云つてゐる。米國の兵隊の日課は勿論その隊々によつて多少は違つてゐるが大體に於て午前六時起床點呼午前六時五十分朝食、同七時五十分練兵場に集合して體操や密集訓練をやる、九時半頃から武器の操作練習及び手入れをなして十一時頃から約一時間敵味方に分れて攻防演習をやりこれが終つたら兵營に歸つて晝食となつてゐるやうである。午後は大體休養時間に當てられてゐるが、時には簡単な講演や突然の検査などで集合を命ぜられることがあるやうである講演は普通軍隊の禮儀たとか戦争に關する話などあるが時には優生學などの講義をやつてゐる、夕飯がすむと自由で午後十時就寝することになつてゐる、このやうに見ると彼等の兵營生活はまともな訓練は午前中だけであとは殆んど自由の時間である、故にかなりのんびりとしたものであることが判るが、しかも精神的の訓練は全くかけてゐるやうである、そこでステイムソン陸軍長官もオランダの陸軍よりも劣つてゐる、これはどうにもならんからといふ實情である、このやうな米國陸軍の

士氣の弛緩は各方面の論議の的となつて居り、當局も最も頭を悩ましてゐるが、結局お祭禮マスカルゴであちこちから搔き集められた兵隊の寄り集まりであることに最大の理由があることはいふまでもない、或る新聞では。

軍紀の弛緩が最も甚だしいのはルーズベルト大統領の支配を眞正面から強く反対してゐるやうな地方にある軍隊であり又反ルーズベルトの色彩の濃い地方出身の兵隊連の間にも特に士氣の弛緩がはつきり認めらる。

と報じてゐるが、タイムズは。

米國の軍紀の弛緩といふとは多くの原因があるが最も根本的な原因は兵隊の自覺が足りないと云ふことにある、この自覺の缺如は當局の施策の適切でないことに基因してゐるが兵隊がまた眞に兵士としての覺悟を持つてゐないことに因るのである、云はゞ彼等は單に軍服を着た市民に過ぎないのである……彼等の市民的な氣持が種々の不平不満を生みしかもその不平不満を解決し得ぬところから彼等をして出たらめな行動にならしめたのである。

と痛烈に自國軍隊の欠點を指摘してゐるのを見ても米國の軍隊の一般を窺ひ知ることができる。「次下次號」